

富山高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	ビジネス英語演習Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0148		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	国際ビジネス学科		対象学年		5		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	Practical Grammar in Context - Speaking and Writing Naturally and Accurately - (配布教材)						
担当教員	西原 雅博						
到達目標							
1. 英文法の知識を正確に理解して、その応用力を身に付ける。 2. コンマ、セミコロン等の句読法と接続表現を正確に使用できる。 3. フォーマルな表現、くだけた表現といった言語の社会性について理解し、これを用いることが出来る。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)	
英文法の理解と応用力		英文法の知識を正確に理解して、その応用力を身に付けている。		英文法の知識を理解して、その応用力をおよそ身に付けている。		英文法の知識の理解とその応用力が身に付いていない。	
句読法と接続表現の運用力		コンマ、セミコロン等の句読法と接続表現を正確に使用できる。		コンマ、セミコロン等の句読法と接続表現をある程度の正確さで使用できる。		コンマ、セミコロン等の句読法と接続表現を使用できない。	
言語の社会性の理解と運用力		フォーマルな表現、くだけた表現といった言語の社会性について理解し、これを用いることが出来る。		フォーマルな表現、くだけた表現といった言語の社会性について理解し、これがある程度の正確さで用いることが出来る。		フォーマルな表現、くだけた表現といった言語の社会性についての理解と運用力が不十分である。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー 1							
教育方法等							
概要	この授業は、英語の語法や表現方法を広く、深く、実践的に学び、あらゆる方面の英語力の基礎を作ること、外務省等の公務員や民間企業での業務に求められる正確な英語使用のための基礎を作ること、そして、大学編試験や海外大学進学のためのTOEFLやIELTS、英語論文作成力の基礎を養うこと、以上を視野に入れて構想されています。国際ビジネス学科での英語学習の総まとめであるとともに、卒業後のプロフェッショナルな場面で通用するような英語力への橋渡しです。						
授業の進め方・方法	本授業は、学生が主体的に参加する発表・演習形式で行われます。前回の講義の復習および予習を行ってから授業に臨んでください。具体的には、学生は指定された5～6ページ程度の予習をすませて授業に臨んでください。授業では、学生に解答を指名する形式で進められますので、この予習は必須です。						
注意点	本科目では、60点以上の評価で単位を認定します。評価が60点に満たない者は、願い出により追認試験を受けることが出来る。追認試験の結果、単位の修得が認められた 者にあつては、その評価を60点とする。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	名詞・冠詞		教師－学生、学生－学生の学びあいに積極的に参加し、英文法の理解と運用力を高める。		
		2週	単純現在時制、単文と重文：等位接続詞		教師－学生、学生－学生の学びあいに積極的に参加し、英文法の理解と運用力を高める。		
		3週	従属接続詞Ch：複文		教師－学生、学生－学生の学びあいに積極的に参加し、英文法の理解と運用力を高める。		
		4週	現在進行形、単純過去形・過去進行形		教師－学生、学生－学生の学びあいに積極的に参加し、英文法の理解と運用力を高める。		
		5週	単純未来形・未来進行形、現在完了形・現在完了進行形（1）		教師－学生、学生－学生の学びあいに積極的に参加し、英文法の理解と運用力を高める。		
		6週	現在完了形・現在完了進行形（2）		教師－学生、学生－学生の学びあいに積極的に参加し、英文法の理解と運用力を高める。		
		7週	過去完了形・過去完了進行形、未来完了形・未来完了進行形		教師－学生、学生－学生の学びあいに積極的に参加し、英文法の理解と運用力を高める。		
		8週	名詞と動詞の数の一致（1）		教師－学生、学生－学生の学びあいに積極的に参加し、英文法の理解と運用力を高める。		
	4thQ	9週	名詞と動詞の数の一致（2）		教師－学生、学生－学生の学びあいに積極的に参加し、英文法の理解と運用力を高める。		
		10週	対接続詞		教師－学生、学生－学生の学びあいに積極的に参加し、英文法の理解と運用力を高める。		
		11週	接続副詞、移行語		教師－学生、学生－学生の学びあいに積極的に参加し、英文法の理解と運用力を高める。		
		12週	文の強調、関係代名詞：「必要な関係代名詞節」と「必ずしも必要でない関係代名詞節」		教師－学生、学生－学生の学びあいに積極的に参加し、英文法の理解と運用力を高める。		
		13週	動詞の目的語としての関係代名詞、前置詞の目的語としての関係代名詞		教師－学生、学生－学生の学びあいに積極的に参加し、英文法の理解と運用力を高める。		
		14週	関係副詞 when, where、量の表現、分詞句への縮小		教師－学生、学生－学生の学びあいに積極的に参加し、英文法の理解と運用力を高める。		
		15週	期末試験		第1週～14週までの内容の学習度を測るために、期末試験を行なう。		
		16週	答案返却、解説		答案の振り返りを通じて、学生の学習度を内省させる。		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	0	0	30
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20